

編集後記

先週私のクリニックのある東京練馬区の精神保健福祉関係者連絡会の地域ブロック会が保健相談所で開かれたので出席した。この連絡会が中心となり昨年からの区内の精神障害者を対象に「精神保健に関するニーズ調査」が区当局とは別個に自主的に行われた。その調査の報告会が今年の7月に開かれ、参加者228名のうち当事者が126名で、質疑応答は当事者たちの熱心な発言で埋めつくされた。この日のブロック会は当事者を含まない従事者の集まりだったが、調査と報告会の盛り上がりを受けて今後の方針を話し合うことが目的だった。会ではこの地域の社会資源に不足しているニーズに応える「生活支援センター」を作ろう、「地域精神保健福祉協議会」を作り下から行政を動かして行こうという方針が確認された。財政難を理由にして行政当局の動きは鈍いが、我々がフォーラム横浜宣言で確認した「精神保健福祉圏域」の設定→「精神保健福祉推進協議会」の設置→社会資源の整備・拡充の流れは、行政リーダーシップが欠如したまま、押し止めることの出来ない勢いで地域の当事者・従事者から沸き起こってきていると感じた。／リーダーシップの不在といえ、この横浜フォーラムも責任ある事務局体制を作れず、多くの人々をハラハラさせご迷惑を掛けたことをお詫びしなければならない。それでも日本の精神保健の現状を憂う沢山の人の熱意に支えられて無事にフォーラムを終えることができ、感謝に堪えない。金も力もない寄り合い所帯である精従懇の不思議なパワーは精神医療・保健・福祉の現場で苦闘する従事者の心意気に支えられている。／この報告集のフォーラム運営委員である香田真希子、野口弘之、藤本豊、宮川齊の各氏が行った。一時は絶望視された年内刊行を実現させたのはひとえに藤本氏のミラクルパワーであった。私は最後まで藤本氏の足を引っ張ってご迷惑を掛け、最後の最後にこの編集後記だけを書かせて戴くことになった。／表紙カットは精従懇と精神保健フォーラムを終始一貫支え続けていただいている精神神経学会の牧敏雄事務局長に腕を振るっていただいた。横浜フォーラムが21世紀の日本の精神保健改革に希望を託す架け橋となることを願いたい。(1998.11.12 金杉和夫)

第3回 精神保健フォーラム報告集

発行日 1998年11月28日
編集委員 金杉 和夫 (日本病院・地域精神医学会)
香田真希子 (日本作業療法士協会)
野口 弘之 (日本作業療法士協会)
藤本 豊 (日本臨床心理学会)
宮川 齊 (地域精神保健・社会福祉協会)
発行者 第3回精神保健フォーラム運営委員会事務局
〒113-0033 東京都文京区本郷5-25-18
ウイングビル52内
日本精神神経学会内
☎ 03-3814-2991 Fax 03-3814-2992